

おかげさまで「さわうた」は丸5年になりました これからも明るく楽しく元気よく歌いましょう

さわごえ君 第18話
「切り花」



つねつね うた徒然 No.3

さわうたで歌われているいちばん古い歌③ 民謡・古曲・古典音楽の源を探る旅

元を質せば古い民謡でも 新しい感覚で歌われている

さわうたで歌われているいちばん古い曲を確かめようと調べ始めたのはいいのだけれど、これが難航。

たとえば「山の音楽家」は、1964年4月～5月にNHK『みんなのうた』で服部克久の編曲、タークダックスの歌によって放送されたのが日本でうたわれるようになったきっかけなのだが、原曲はドイツ民謡で水田詩仙が日本語詞をつけた。かなり古い曲なのに現代人の感覚的に合うからたいしたものだ。

「ずいずいっころばし」は1920年頃に発売されたレコードでは野口雨情作とあるのだが、もともとは江戸時代の童歌からヒントを得たもので制作年代不詳。「野なかの薔薇」はドイツの詩人ゲーテの詩にウエルナーやシュベルトが曲をつけたものが明治になって訳詞されて普及してきた。こうした「民謡」とか「古曲」「古典」といわれるものが14曲もある。

昔から誰が歌うともなく歌い継がれてきたのが民謡、あんまり古い歌なので作曲年代なんか分からないというのが「古曲」なのだから、こういう曲はいつ作られたのかを詮索してはいけない、ただ心うたえながら歌えばよい曲なのだろう。

人が動いて歌も伝わり 新しい伝統が生まれる

でも、そう言ってしまう身も蓋もない。せっかくだからそれぞれの曲の成り立ちまで遡ってみることにした。

例えば、北海道のニシン漁の歌「ソーラン節」は、もともとは青森県野辺地町の「荷揚げ木遣り唄」が源流だという人がいる。青森県の江戸時代は松前藩。松前藩が蝦夷地（北海道）に出かけて行ってニシン漁を栄えさせたのが天保年間で、この木遣り唄も一緒に渡ったと考えられるので、制作年代は1830年代だと考えてよいのだろう。

そのように源を辿って、次回はオールド・ベスト14の発表!

第9回独唱会 4月24日(火) & 26日(木)

伴奏：鈴木不尽子(vn) & セキシユウ(pf)
日頃の練習の成果をどうぞご覧ください!!

20:00～22:30 2,000円 1ドリンク

独唱会ではミニライブやります

24日 久しぶりにセキシユウが弾き語り

26日 お馴染み松本圭未で御機嫌に

くさわうたカレンダー>

太い数字=さわうた

..... =ふりうた

○ =プチコーラス

♡ =プチ・ポイトレ

⊙ =ゆるゆるサロン

□ =AMANEライブ

2012 (H24) 年		4/1～4/28				
日	月	火	水	木	金	土
1	2	③	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	⑩	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28